

義理と人情っていうのは、なんかその挨拶の声と

か、その人間においての所作みたいな

語り手 河野 匠朗（高校十六期生 政策科学部）

聞き手 谷本瑛汰

*

—じゃあ、まず、なぜ聞き書きに立候補しようと思ったのかを教えてください。

—それか、それなんて言おうかな。（サッカー部の）監督の庄とかもあるんやけど。

—ははは。確か、探究活動で表彰されたんですよね。

—そうですね。自分がやっていた活動を、みんなの探究とか、今後の立守もこんなことができるよっていうのをみんなに伝えたかったからかな。

*

高校までの生い立ち

—なるほど。そういうことですか。では、河野さんが、立守に進学する以前の生い立ちを教えてください。

—そうやな。生まれてから自分は結構体が弱くて、生まれつき股関節脱臼してたりとか、呼吸器が弱くて喘息になったりとかで、あんまりサッカーとかスポーツに向いてる体質じゃなくてっていう感じで生まれたかな。で、小学校とか幼稚園とかはちよつとやんちゃな子で、大体先生に怒られるタイプやったかな。ちよつと挑発みたいな感じでやんちゃ座りしてる感じ。で、小学校はそのまま入って、幼少期から仲いい友達と

かと毎日遊んで。小学校の部活っていうのは小学校三年生から始まるんやけど、自分のお父さんは野球をしててお母さんも昔野球部のマネージャーみたいな。やから勝手に野球をするんかなって自分の思ってたけど、友達がみんなサッカーするから、その流れでサッカーを小学校三年生から始めたかな。ほんまに最初は遊びみたいな感じで小学校の部活って感じやからクラブチームとかじゃなくて、ほんまに朝ちよつと集まってリフティングしてミニゲームしてみたいな。ほんで夕方もちよつと練習あつて、土日は試合っていう、結構ちゃんと練習はするけどプロに教えてもらうわけではなくみたいな感じで始まって、だんだん楽しくなってきた。そのとき小学校一緒にの部活でやってた先輩からクラブチーム入らないかって言われて、そこでクラブチームに入って、そこからもう本格的にサッカー始めるって感じで。先輩の影響でそれ（サッカーのクラブチーム）に入って、そこからちゃんと大会とか出てって感じでやってた。なんか小学校の時とかは全然自分上手くないと思ってたけど、意外とサッカー行けるやんみたいな。入ってすぐ出れると思ってなかったけど意外と出れたりして。それが楽しくなってきた、試合とか出れるみたいな感じで小学校を終えて、今かな。

—中学はどんな感じだったんですか。

—小学校から中学に上がるタイミングで大体みんなクラブチームに行くやんか。やねんけど、サッカーを誘ってくれた先輩は中学の部活に入ってた。その人めっちゃ上手くて、その人は結局立命館守山の十番になったんやけど。別に一緒に行ったわけではないけど、たまたま全部一緒やって、その人上手いし、その先輩を追いかけてじゃないけど中学でやった先輩と一緒にできるしって感じのノリでクラブチーム行かずに、中学は強かったっていうのもあったから入って、そこからずっとそこでサッカー

ーしてました。でもそこ（中学のサッカー部）に入って、あんま上手くいかない時期があつて、中学のサッカーがあんま楽しくなくて感じて終わって。やからこそ高校は絶対にサッカーしたろって思ってた。中学あんまりできなかった分、高校頑張ろうと思ってた。じゃあ絶対私立やつてなって、中二くらいから勉強をめちゃくちゃ頑張った。もともとめっちゃ馬鹿やつて、あんまりこの立命とかいける頭はなくて。ほんまに地元の公立高校行くような感じだったけど、そこから勉強しようってなつて。

ー中二の頃から、立守に行こうと思っていたんですか？

それは立守ってことじゃなくて。私立に行きたくて。あと大学ついでるところ。ついてなかったら大学受験考えつつ、高校サッカーしなあかんみたい。まあ、嫌かなと思つて、大学ついてるところみたいな。で、同志社香里っていうところに行こうとして、そこから勉強を始めたって感じ。

ーじゃあ元々は同志社香里に行くために勉強してたってことですか？

うんうん。そんな感じでやって。で、高校受験の前に提出して合格ですみたくないのが先にあつて。早い段階でその評定とかを出してんけどそれで落ちて。高校どうしようってなつて。それが本当に立守の出願の一週間前ですようってなつて。その時は立守とか本当に何も考えてなくて、ちよつとサッカー強くて私立で大阪っていうので考えてたけど、中学のサッカー部のめっちゃ仲いい友達が、俺立守行くみたいなのを急に言い出して。そいつが行くって言ったから俺も行くわみたいな。まあ、先輩も行ってたっていうのもあつて、その同級生も行くってなつて。で、自分もいやんみたい。先輩で行ってる人おるし、遠いけど行けんこともないからと思つて。じゃあもう行くしかないと思つて出願し

てんけど、もう学校説明会とか見学とか何も見ずに。普通、推薦でさ、一般とスポーツ推薦あるやん。俺普通の推薦で出してんけど、まさか足らんくて。で、どうしようってなつて学校の先生に言ったら、専願で受けなさいみたいな。で、先生が受かるって言うてるし先生の言葉信じて受かるんだと思つて。でも専願やし勉強しなつてなつて、めっちゃ勉強してた途中ぐらいいになんかサイト見たんよ。そしたら三分の一しか受かりませんみたいな。で、どうしようって。

ー確かにそれは焦りますね。

で、落ちたら行く高校ないですみたいな状態になつて。でも逆にその焦りが良かったのかめっちゃ勉強して。その、ほんまに受験までの二週間ぐらいで過去問十年分ぐらいを二周、三周ぐらいいして。

ーやつぱ人間追い込まれたら力発揮できるんですね。

いや、だからそこで受かったんが俺の結構人生の分岐点だ。そこで焦つたっていうのが良かった。大学も決まるしこやつとかない。私立行きたいってなつてたから落ちたらもうほんまどうしようっていう感じやったから。でまあ高校まで至るって感じかな。

*

高校時代の部活動

ーなるほど。高校での部活はサッカー部ですよ？

うん。先輩がサッカー部やったし、中学でできなかった分高校でかましてやるって思ってたから。

ーじゃあそのサッカー部時代の思い出はなにかありますか？

高一の時の自分は、吉田先生に第一ボタン締めろって言われてたのになんか開けて。階段であつた時にもうこの距離（顔と顔がくっつきそうな距離）で言われて。今まであんまり先生に怒られるっていう経験

がなくて、結構真面目やってたから、なんで怒られんねんって少し衝撃を受けた。先生に怒られるっていう経験をしてなかったから。

―吉田先生は服装とか厳しいですもんね。

なんか義理と人情とか言われたことない？

―義理と人情ですか？ 言われたことないです。

これは結構俺らの代でも話すけど、その経験は結構良かったなって。その義理と人情っていう俺らの中で吉田先生が言ったワードに全員はまって、恩を恩で返すって感じやから、それこそ俺らで旅行行って飯屋とか行っても地元の人とめっちゃ話して仲良くなってみたいな。そして次の日なんか連れてったるわみたい。そのマインドはずっと俺らの高校の友達が根付いてるといふか。当たり前のことを当たり前にするって感じで、食器めっちゃ綺麗にしてみたいな。で、向こうの人に褒められて仲良くなってみたいなとか。そのコミュニティを俺らができてるのは吉田先生のおかげやな。その当時は、また言ってるわみたい。感じだったけど、大学生になった時に、すごいね、みたい。褒められることの方が多くなったというか。なんか挨拶することに対してとかそういうことに関しては、吉田先生が言ったことを無意識に当たり前にするようになって。別に高校に入るまでもできなかったわけではないと思う。でもそれ以上に義理と人情が当たり前になってるから、それに就いて褒められることが多くなったりして、なんかやったりしたら、自分に返ってくるが多くなった気がする。やから、今なんかカッコ悪いなとか思っても、大学生になった時とかに役に立ったりするから。それが思い出とか教訓かな。

―なるほど。他に部活とか学校で楽しかったこととかありますか？

楽しかったことか。もうほんまそのマジで立守楽しかったなって思う。もうそのサッカーじゃん。ほんまにサッカーの生活が今考えたらめっちゃ楽しかったなって。ほんま高校に比べると大学おもないなって思ってた、高校は朝早く起きて朝練習行って、ボール蹴って、授業適当に受けて、昼休みは一緒に飯食って、夕方部活して、みんなで死ぬほど走ったりして、めっちゃ疲れて毎日電車で帰るみたい。その時はきつかったけど、今考えたらめっちゃ楽しかったな。

―確かに充実してるかもしれないですね。

今は多分きつさはあると思うんやけど、そのきつさの経験ってやっぱもう俺の大学生活だったら絶対経験できひんから。確かに大学楽しいって人もいるし、他の大学生とかも聞いたら高校より大学が楽しいっていう人もいるけど、立守のサッカー部に聞くと絶対みんな高校の方が楽しかったって言うかな。そうだから、今はいやでもやっぱその生活を続ける方がいいよ。朝早いけど、五時とかに起きてボール蹴ったりとかしてる方が、そこ妥協して行かへんとかじゃなくて、そういうのしてる方が楽しい。あ、でも引退してからも楽しかったよ。俺ら朝とかちよつと早く行って、仲良いサッカー部とかサッカー部じゃない奴らも含めてサッカーとかしてた。引退してからも、探究の授業とかスポーツ概論とかあんねんけど、授業をめっちゃ楽しんでやってた。これももう怒られちゃうかってぐらいやって、実際怒られたこともあったし、他の授業中とかも楽しみすぎで怒られることもあったけど、それがまた、それも青春やなって思う。

*

服のリサイクル探究

—じゃあその話変わっちゃうんですけど、服のリサイクル探究はどんなことをしたのか教えてほしいです。

えつとな、マツチングシートみたいなのをもらった時に、服の探究を試みたのがあって。

—なんで服のリサイクル探究をしようと思ったんですか？

俺めっちゃ服好きで、今もアパレル店員してるぐらい服好きで。やっぱり探究するなら自分の好きなことだったりっていうので、服やろうかなって。服やるってなった時に、ただただリサイクルで集めてみたいなやつって多分いっぱいあるやん。やから、その地域の問題を合わせようっていうのを二年の時の探究授業で、サッカー部の友達とそれも服好きやって、服系でやろうぜってなってんけど、服系でやるって二年でむずいになって。あんま行動力ないしってなって。やから、立守の制服をよくしようみたいなプロジェクトしようってなって。なんか最初は新しい制服作ろうぜみたいな。

でも立守の制服結構いいやんか。やから、小物とかなんか充実させようみたいな。ほんまにカーディガンとかニットとかもつと色増やして、カラフルにしたらどうやみたいかなって言ってたけど、なかなか期間も少ないしっていうので、その活動はほとんど何もせずにつて言ったらあれやけど、なんかこう今の実態を調査してみたいな、それを発表することになった。最初はその関連で、三年だったら一人でやるやんか。で、俺はそれで服使おうみたいな発想になって、湧いてきたのが地域の問題と服っていう感じで。

自分は地域の人と結構仲良くて、小学校の時からおばあちゃんとかに可愛がってもらって。その関連で俺の住んでる地域の会長みたいな人と仲良くて。でも服のリサイクルって地域課題やから、とりあえず地域

課題のことをその人にインタビューに行こうみたいな。それでその人に聞きに行った時に結構（服のリサイクル探究について）話して、じゃあ一緒にやるうやみたい。手伝うからみたい。ちよつと大きくなっていったみたいな。

で、調べてるうちに、少子高齢化やんか。で、なんか俺、お母さんとかおばあちゃんとかに服とかアクセサリーもらうことが多くて。靴とかも結構おばあちゃんとかお母さん世代からいいものもらう習慣じゃないけど、なんかあるなみたいな。多分、昔の人ってそういうのあると思うんやけど、親からちよつといいものもらうみたいな。昔の人って結構服とかも置いてたりするんやけど。

今はファストファッション結構多いけど、ユニクロとかGUとか多いけど、昔の人は良いものを長く着ようみたいな風潮があるから、その風潮から昔の人の服を、いらなくなった良いものを若者に届けようみたいな。セカストとか最近人気っていうかブームやんか。それをこの高齢者から若者の地域のコミュニティでやってみようみたいな。こういうのってあんまりないなってパツと思いついてそれをそのままやってみたいな感じやけど。高齢者の衣服を若者にみたいなセカストブームとかあるしそれに乗ったたらヒットするなみたいな。一旦とりあえず地域でやってみようみたいな感じで始めたのがきっかけ。

で、まあポスターみたいなやつ作ってんけど、どうやって伝えたらいいかなって思った時に、なんかおばあちゃんとかってさ、回覧板みたいなやつ見るやん。あれいいんちゃうかって思って目つけて。で、なんかその掲示板とかあるやん、地域の住居とかに。あそことかに貼ってこれを回覧板で回すみたいな。そしたら、えぐい数の服集まって。ほんまも

う、普通に自分の部屋ぐらいの。もう、段ボールほんま、ふわって、もうなんか十何箱。

—そんなに集まるってすごいですね。

そう。それを売ってお金にしてって感じ。で、その、服は集まってんだけど、その多すぎて、仕分けて、それをなんか出品するとか無理やから、その服を一回業者に売ってお金にして、そのお金を子供のワクチンにしようみたいな。

ほんまは服を売るとかが一番理想やねんけど、それはちよつとスケールデカすぎるし、高校生でやることじゃないからそれを売ってお金にしてっていうので、売った服の合計が一万円ぐらいだったんよな。それをワクチンにしてっていうのが表彰されて。意外とここまで理にかなったというか、俺なんか普通やってることとしては単純やねんけど、ここまで理にかなって、それを実現してる人は少ないから表彰されたんかなと思う。

—確かに俺がやつてもそこまで理にかなったものを実現できる気はしないです。

やっててなんか急にまとまったっていうか。ポツと湧いてきたアイデアが、たまたまこういけたみたいな感じで。でもほんまはこの服を集めてやろうと思ってたのは、その人の服へのメッセージじゃないけどストーリーをつけようと思ってる。この服はいつ買って、私はこういうところに着て行っちゃった。次着る人はこんな感じで着てくさいみたいなメッセージつけて、ネットとかで若者に売ればいいんじゃないかなって。その閲覧板で回して、そこは原始的やけど、集まった服をなんかメッセージつけてネットで売りたいなやつって結構面白いかなっていう。なんかそう、例えばそれができるようになってきたらその出品する

おばあちゃんとかも寄付するときになんかもらえろとかにして。で、若者はお金を出して買うみたいな。そこで利益上げれたらっていうのを思ってたんやけど、それはちよつと無理やなって。セカストとはちよつと違う形態でそれ大学でちよつとやってみようかなっていう思いもあったりもするけど、スケールがでかいし、お金も必要やし。でも面白いことあるかなって考えてたらたまたま浮かんできたよ。

—じゃあその探究が進路とかにどう影響を与えましたか？

進路は俺もともと経営行きたくて。将来の目標は、経営者になりたいなっていう気持ちがあって、経営に行きたかったんやけど無理やって、政策になったんやけど。服系を経営するのはやりたいなっていう気持ちがあって、それで服の探究をやったって感じやな。

—そこで探究が生きてきたって感じですか。

そうそう。将来何で起業しようってなった時にこういうのもあるかなみたいなイメージはしやすくなった。探究でやったように会長とか地域のコーディネーターの人と話して、チラシ配ってみたいな。ちよつと経営っぽいやん。お金は関係ないけどそれにお金を乗っかってくるみたいな感じで。そのなんか経営者のイメージじゃないけど、そういうのはしやすくなったから。こういう感じで物を進めていくんやみたいな。

—なるほど。探究活動が今にも影響を与えてるってことですね。

そういうことかな。とりあえず（部活）全国目指して頑張ってるわ。

—ありがとうございます。じゃあもうそろそろ時間が来てしまったのでこの辺で終わらせてもらおうと思います。お時間作っていただきありがとうございます。

こちらこそありがとう。お腹空いたしご飯でもいくか。

—行きたいです。一旦終わりますね。ありがとうございました。

【感想】

今回の取材を通して、普段している部活は高校生活でしか出来ない貴重な経験であり、そこでの学びや教訓はこれからの人生でも生かされるものだと言実際の経験談から教えていただいた。また、探究活動が語り手の今にも影響を与えていることを知った。だからこそ、より一層部活動に励み、探究活動で自分の興味関心を広げていきたいと思った



右：語り手 河野匠朗さん
左：聞き手 谷本瑛汰